

平成22年度第1回 事業報告

主任研究員 大田浩右

主任研究員 堀 忠雄

主任研究員 大田章子

○睡眠障害研究

昨年度に引き続き、堀忠雄所長を中心とし、不眠や睡眠時無呼吸症候群（SAS）に関する調査、睡眠環境の相談・カウンセリング事業などを実施した。堀所長によるカウンセリングは延べ149回実施した。

脳神経センター大田記念病院外来の協力を受け、「不眠相談窓口」を設置し、不眠に悩む患者さんの相談を受けた。カウンセリング、不眠相談の実施により、市民の睡眠に対する誤解、知識不足等が明確となり、引き続き啓発活動を行っていくことが重要であると考えられた。

また、明神館脳神経外科と協力し、「ムズムズ脚症候群」患者のデータベースを作成した。現時点で登録症例数は120症例を超え、この数は全国的にみても極めて多い。本疾患は明確になっていない点も多く、今後このデータベースを分析し、実態を解明していきたいと考えている。なお、本疾患に関する報告を7月に行われる日本睡眠学会で発表予定である。

厚生労働省・老人保健健康増進等事業については、『高齢者の不眠に関する実態調査および高齢者の不眠解消に向けた啓発講座「快眠塾」の実施』という研究課題で申請が受理され、福山市近郊の高齢者を対象に事業を実施した。この調査研究結果については、冊子にまとめ、厚生労働省に提出した。今後は成果を学会、雑誌等で公表したいと考えている。また、平成22年度も事業を継続すべく、事業申請を行っている（21年度報告書及び22年申請書別添）。

○脳卒中・血管内治療研究

脳卒中・血管内治療研究グループについては、主として「脳卒中データバンク」を用いた臨床研究を実施した。脳神経センター大田記念病院医師・看護師らと協同で、脳卒中患者の在院日数遅延に関する要因について検討し、国際学会(world federation neuroscience nursing)において成果を発表した。

○高齢者保健医療福祉助成事業

研究委託として、以下の団体に対する助成を行った。

- ・滋賀大学睡眠講座 100,000円
- ・広島大学大学院 脳神経内科学 大槻俊輔先生
「脳梗塞急性期の臨床上疑問を感じた病態生理を解決する研究」 200,000円

○市民健康啓発事業

「講師派遣業」は、福山市近郊の公民館・集会所において、地区住民を対象とし、がんや生活習慣病、認知症等に関する講座を開催した。各回とも大変盛況であり、好評を博した。また、「市民公開講座」は2回開催したが、各回とも400名を越す来場者が集まり、本講座のニーズが高いことが伺えた。本事業は今後も公益事業として継続的に実施していく予定である。（開催内容の詳細については添付資料参照）

学会発表：

Souda F, Ota A, Matsui M, Yumite M. What are the decisive factors of the length of hospital stay?- A retrospective study on ischemic stroke patients in major acute care stroke center in Japan. 10th Quadrennial Congress of the World Federation of Neuroscience Nurses; 2009 May 23-29 ;Toronto, Canada

●森美幸、畑野展子、大島恵美、堀忠雄、大田浩右

「SAS患者におけるCPAP療法 満足度を上げる要因は何か？」，第16回福山医学祭;2009；福山,日本.

●落合亮太, 佐藤栄子, 西垣昌和, 柴山大賀, 阿部吉樹, 萩原章子, 松崎主税, 益子茂, 数間恵子. 2型糖尿病患者のQOLと身体活動量の関連の検討, 第3回日本慢性看護学会学術集会; 2009 Jul 4-5; 東京,日本.